

Essay
エッセイ

フリーの木こりが切り拓く、森林の未来像

足立 成亮(あだち・しげあき)

森を守り育てる道づくり

自己紹介をする時には、伝わりやすいように「フリーの木こり」や「林業屋」と名乗っています。北海道内各地の山林に分け入って調査したり、木を伐採して道をつけたり、運び出したりする仕事をしています。

2009年から林業の世界に入って、今年で16年目。自分なりに考えて辿り着いた、できるだけ森を傷つけない環境共生型の林業を実践し、提案してきました。

自身のルーツについて振り返ってみると、体を動かして遊ぶのが大好きな子どもでしたが、ナチュラリストの皆さんのように野山や自然に親しんでいたわけではありません。ただ、大地からスッと伸びる「木の姿」になぜか惹かれて、20代で写真創作活動をしていた時も、木々をモ



チーフに作品づくりに励んでいました。

北海道の林業には山林に細やかに道をつけ、残していくという概念が定着していません。冬期間に雪を利用して木材を搬出できること、さらには本州に比べて起伏がなだらかな山が多く、大型の重機でどんどん入れてしまうこともあり、伐り出した木材を運搬するための道を作るという文化そのものが育まれなかつたんですね。今でも夏山には藪が濃すぎて入れないことが多いので、冬の間に山々を丹念に踏査して、次のシーズンの想定ルートを定めています。

いま作業を進めているこの森は、札幌市清田区の白旗山に位置する「札幌南高等学校学校林」です。1年に1,500mのペースで、12年間にわたり、幅2.5mの道を延ばしてきました。こうした道は「森林作業道」と呼ばれます。作業が終わったら使い捨てにするのではなく、札幌南高の学生さんやOBの皆さんのがトレッキングしたり、散策したりできるような恒久的な道づくりを目指しています。

森の復元力を生かして

北海道では明治の開拓時代から、伐り出した木を建材や資材として活用してきました。その後、昭和30年代に入ると重機類の性能が大幅に向上し、山の木々を丸



ごと伐採する「皆伐」が主軸になっていきます。森林限界(高木が育たず、森林を形成できない限界線)の近くまで刈り取った木材は、資源として国内外に販売していました。

対して僕は、森林の持続と木材生産の両立を目指す木の伐り方を模索しています。間伐という手法の中でも、森に宿る原始への復元力を助長するようなやり方を目指しています。遙か未来のその森林の姿を想像しながら、力のある木を残し、周りの木を丁寧に収穫する。景色を美しく保つよう、そっと道をつけて丸太を運び出し、大切に使ってもらう。時間はかかりますが、そんな林業を伝えていきたいと考えています。

作業は数人のチーム制で進めます。事前に調査で伐ると決めた対象の木にチェーンソーを入れていくわけですが、生命力の強いツタが執拗に絡まり、木々が互いにもたれ合っているので容易には倒れません。カットした丸太はバックホーで集め、フォワーダー(林内運搬車)に積んで出荷します。ちなみに使用している小型のバックホーは、私が個人で(ローンが組めないので)現金一括で購入した愛機です。

私がつけた山道を歩いてもらえば、どういう森を次の世代につなげていきたいと考えているのか、そのメッセージがきっと伝わると思います。ランドスケープデザインに近い考え方になってきますが、人と山が共存できる林業、森と親しむための道づくりをこれからも進めていくつもりです。

林業の技術を建設・土木に

森に道をつけるという職業柄、道内各地を車で走っていても、道路の設計や施工がどうしても気になってしまいます。道が荒れると、その土地は荒廃します。だからこそ道路は欠かすことのできない重要なインフラであり、同時に人の営みが積み重なって出来上がる生き物でもあると捉えています。

これからビジョンとしては、林業の技術を建設・土木

分野に落とし込んでみたいなと考えています。例えば、道路際の法面を整備する際、今は専用の保護材を敷き詰めて施工していますが、昔のように現地調達した植生や木材を活用した方が、周囲の生態系への影響が少なく、地球環境との共存も実現できるはずです。林業と建設業の互いのテリトリーが徐々に混ざり合っていけば、もっと面白くなると思います。

北海道の森の環境は、刻々と変化を遂げています。例えば今年はとんでもない量のハチが森に生息するようになったり、キノコが全然生えなかったりと、その変化を肌で感じながら仕事をしています。街の暮らしの方が刺激が強いと思えるかもしれません、私にとっては目まぐるしい変化に富んだ自然の中にいる方が、関心をそそるもののがたくさんあって刺激的です。

また最近は、志を同じくする仲間たちと共に、森と街を結ぶ場として「森と街のがっこ」という活動を実施しています。森と人が共存するためには、街に住む皆さんの森への関わりが不可欠。私たちと一緒に森に入って、実践している林業を知ってもらい、楽しみながら広めもらえれば、との思いで取り組んでいますので、興味のある方はぜひご参加ください。

森と人の営みは根本的にタイムラインが異なります。その狭間に立つ存在として、これからもできるだけ開かれた森林環境を保てれば、と願っています。

足立 成亮 (あだち・しげあき)

■ profile

1981年北海道札幌市生まれ。2009年から滝上町の森林の調査・作業を行う企業に2年間勤務し、続いて1年間、滝上町林務課の臨時職員として町有林の管理や森林整備の計画業務を担当。12年に旭川市でoutwoodsを設立し、フリーの木こりとして独立。16年から拠点を札幌に移転。道内各地の森林で山仕事を行う傍ら、21年には森と街を結ぶ取り組み「森と街のがっこ」をスタート。また、足立氏らの活動を4年にわたって追ったドキュメンタリー短編映画『FOREST TRAIL』(中村祐太監督)が25年10月から道内各地で公開中



- 森と街のがっこ
<https://www.moritomachi.school>
- 『FOREST TRAIL』公式サイト
<https://foresttrail.info>